保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">ビジネス実務ⅢB</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51050501</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>2 年次</td><td>前期</td><td>30</td><td>2</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。
そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容を１年次からレベルアップさせることを目的とする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">社会人として必要なマナー（期日厳守）・礼儀（挨拶状）を身に付け活用できる。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験（65%）、出欠席（5%）、提出物（30%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験：各単元の理解度をはかる試験を実施し評価する。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">松田　満寿美</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">ビジネスマナー基本テキスト
（日本能率協会マネジメントセンター）</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">ビジネス実務ⅠA　ビジネス実務ⅡB　ビジネス実務ⅣB</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">１．　ビジネス文書の基本マナー
①ビジネス文書：社内文書・社外文書
②ビジネス文書：挨拶状の書き方（暑中見舞い・年賀状・年末挨拶状など）
２．　慶弔・贈答・会食のマナー</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	子ども家庭福祉			科目コード	51017301	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	前期	30	2	無
授業の概要・目的	子どもと家庭を取り巻く社会現象や生活環境の背景について理解するとともに、児童家庭福祉に関する法律や職業について学習する。					
到達目標	・少子化の要因と少子化が子どもに与える影響とを結び付けて自分なりの言葉で説明できる。 ・核家族世帯の増加に伴う子どもの生活習慣の変化を説明できる。 ・地域社会の変化に伴う子育て機能の変化を自分の言葉で説明できる。 ・児童福祉六法の名前を憶え、各法律の目的や対象の区別がつく。 ・各児童福祉施設を知り、設置目的や対象の区別がつく					
評価項目	・期末試験（95%）、出欠席（5%）					
評価基準	試験にて理解度を図る ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	伊丹　稔博			常勤		
実務経験者による授業	介護老人保健施設（７年）、障がい者施設にてサービス管理提供責任者（３年）					
テキスト・参考文献	「子ども家庭福祉―子どもと家庭を支援する―」　大津泰子 著　ミネルヴァ書房 プリント対応					
関連科目	子ども家庭支援論					
授業計画	1.　少子高齢社会と子どもの健全育成について 2.　変化する家族形態 3.　地域社会の変化 4.　学校に関する子どもの問題 5.　児童福祉法と児童福祉六法について 6.　児童相談所・福祉事務所・保健所について 7.　子ども家庭福祉にかかわる専門職 8.　児童福祉施設					

保育学科　2025 年度

科目名	社会的養護Ⅱ			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	２年次	前期	15	1	無
授業の概要・目的	家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョン（社会的包括）の拡がりの中で、居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。 また、特に障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設養護観の形成を目指す。					
到達目標	社会的養護の原理と原則を踏まえて、以下の 4 点に重点を置く。 1.　社会的養護施設の機能と役割を説明できる。 2.　自立支援計画や養護の理解と簡単な作成を行える。 3.　事例を通して、施設保育者の役割と意義を学び、自らの意見を述べることができる。 4.　子ども虐待の防止と家庭支援について説明できる。					
評価項目	単位修了試験結果（60%）、レポート課題（40%）					
評価基準	単位修了試験の成績、レポート課題の完成度 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	中原　崇			非常勤		
実務経験者による授業	社会福祉士・精神保健福祉士・保育士の国家資格を持ち、これまで児童・家庭福祉、教育の領域で１０年以上勤務しており現在に至る。この経験から学生に専門職としての支援の在り方を講義する。					
テキスト・参考文献	プリント					
関連科目	社会福祉、社会的養護Ⅰ					
授業計画	1.　児童の権利挑護　　児童の最善の利益について考える 2.　里親制度の特性と養育の実際 3.　乳児院・児童養護施設・ファミリーホームの養育をめぐる状況と支援の実際 4.　ひとり親家庭、母子生活支援施設と支援の実際 5.　情緒障害のある子どものための施設と支援の実隙 6.　障害児施設（入所・通所）の療育と支援の実隊 7.　自立支援計画　　子どもへの支援における記録について 8.　里親・ファミリーホームと専門機関とのつながり 9.　虐待された子どもと家族への支援 10.　施設と家族との関わりと地域との連携					

保育学科　2025 年度

科目名	子ども家庭支援論			科目コード	51017501	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	２年次	前期	30	1	無
授業の概要・目的	現代の家庭の抱えている問題、少子化等を理解し、保育士として家庭への支援のあり方や具体的方法を学ぶ					
到達目標	社会の変化による諸問題を知り、現代社会に求められている学ぶことで家庭支援の在り方を理解する。					
評価項目	近畿大学科目試験（100%）					
評価基準	近畿大学科目試験の評価基準に準ずる。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	伊丹　稔博			常勤		
実務経験者による授業	介護老人保健施設（７年）、障がい者施設にてサービス管理提供責任者（３年）					
テキスト・参考文献	子ども家庭支援論 松原　康夫　村田紀子　南野奈津子					
関連科目	子ども家庭福祉 子ども家庭支援の心理学					
授業計画	1. 家族の形態、機能、地域社会の変化を理解する。 家族の形態、地域社会の移り変わりを理解し、求められている支援を知る。 2. 虐待家族への支援 ペアレントトレーニングを理解する。 3. 子どもと家族を支援するサービスについて理解する 子どもと家族を支える制度について理解する(子ども・子育て支援新制度)。また、多様なサービスを知る。 4. 子育て家庭を支える社会資源について理解する 家庭支援における地域の必要性やその在り方を理解する。 5. 保育士の役割について理解する 専門性を活かした子ども家庭支援について説明できる。 6. 保育士の基本的態度について 保育士に求められる基本的態度を理解できる。 7. 家庭の状況に応じた支援について 子どもと家族を支援する個別性について理解できる。 8. 保育所等を利用する子どもの家庭支援について 保育所を利用する家庭の支援の多様性を理解し、その方法を学ぶ。 9. 地域子育て支援について 地域の具体的な家族への支援の方法と制度を学ぶ。 10. 子ども家庭支援についての課題 現在の課題を理解し、自分なりの理想とする社会を述べることができる。					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">障害児保育</td><td>科目コード</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>２年次</td><td>前期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">障害児保育を支える理念について学び、障害児及びその保育について理解する。
様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。
障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・障害の分類を知る。
・保育者として、障害児への関わり方を考える。
・関係機関や施設を知る。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">単元ごとのレポート提出（65%）、障害特性や専門職種についての小テスト（35%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">単元ごとのレポートの完成度、小テストの得点にて成績を付ける
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">伊丹　稔博</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">介護老人保健施設（７年）、障がい者施設にてサービス管理提供責任者（３年）</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">障害児保育第 2 版　ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">幼児への特別な支援</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　障害児保育とは 障害児保育とは何かを考える。
「障害」「保育」の概念を知る。
2.　関連機関と連携 関連機関を知る
診断するのは保育士ではなく医師と理解する。関連機関との連携の方法
障害診断や発育検診について
3.　知的障害 知的障害について知る。
（ダウン症、発達障害等）
4.　広汎性発達障害
自閉症スペクトラム障害 自閉症について知る。
カナー・アスペルガー症候群、高機能自閉症、
ADHD、LD の特徴について
発達障害の子どもの事例について考える。
動画を見ることでイメージを高める。
2 次障害について
援助の方法を知る。
5.　身体障害 視覚障害・聴覚障害・言語障害・肢体不自由児
直接介護の支援方法について体験的に学ぶ。
（車いす利用者への介助方法、食事介助）
6.　振り返り 「障害」を知ることで、個々の個性を考える。
個別支援の必要性について理解する。</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	子どもの食と栄養			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	２年次	前期	30	2	無
授業の概要・目的	保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、各時期の特性や、栄養について理解することを目指す。 小児の疾病と食生活、食事での配慮など必要な子どもへの対応や障がいのある子どもへの対応などを学ぶ。 体験的学習を実施しながら、内容の理解と実践力の向上を図る。					
到達目標	小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解する。					
評価項目	近畿大学科目試験の評価（50%）と授業内提出（50%）					
評価基準	近畿大学科目試験の評価と授業内提出物の完成度にて評価を行う。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	多久和　直樹			非常勤		
実務経験者による授業	保育士として保育所勤務（３年）、園長（８年）					
テキスト・参考文献	二見大介・高野陽編『子どもの食と栄養』（北大路出版）					
関連科目	食育Ⅰ、食育Ⅱ					
授業計画	1.　子どもと食について 2.　子どもの食の問題点 3.　間食の与え方と必要性無菌操作法と終末殺菌法 4.　咀嚼機能の発達行事食の意義 5.　たんぱく質幼児期の食事 6.　生活習慣病混合栄養とは 7.　集団生活における食事作り 8.　栄養と食生活のあり方カルシウム 9.　食育の必要性、食物アレルギー 10.　5 大栄養素、食欲不振 11.　離乳の必要性、母乳の成分変化 12.　嚥下機能の低下、食行動の特徴					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">子どもの保健</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51017601</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>2 年次</td><td>前期</td><td>30</td><td>2</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">子どもにかかわる職種において子どもの健康を保持し、健康状態の変化を察知することが重要であり、その専門知識を身につけるため。
大人とは異なる様々な特徴を捉え、「小児基準」で子どもの健康を考えることのできる知識を養うため。
子どもは身体の諸機能が未熟で十分発達していないため、急変、重症化しやすく不慮の事故も予想される。しかし、早期発見、予防（対策）ができれば回復も早いという特徴がある。保育に関わる上で、専門的な知識と技術が求められる。
そこで、子どもの健康と生命を守るための実践力を身に付けることを目標とする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・子どもの保健の専門的知識が現場とどう結びつくのか、自分なりの言葉で説明できる。
・子どもがかかりやすい疾病とその対応について学び、知識の習得をする。
・習得した知識を実際に行う応用力を持つ。
・保育現場における環境や衛生面の重要性を捉え、実践できる。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">科目終末試験（95%）、出欠席（5%）で総合的に評価する</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">試験にて理解度を図る
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">伊丹　稔博</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">乳児保育Ⅰ、Ⅱ</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">新版よくわかる子どもの保健　丸尾良浩　竹内義博　編
（ミネルヴァ書房　2021 年）</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">乳児保育Ⅰ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　子どもの保健とは何かについて
2.　日本の子どもの保健の水準について
3.　乳幼児の身体発育評価について
4.　生理機能の発達と保健について
5.　精神機能の発達について
6.　心身の健康状態とその把握
7.　感染症
8.　疾患
9.　疾患２
10.　アレルギー性疾患
11.　その他の疾患（耳鼻科、皮膚科、眼科疾患）
12.　保育環境整備、事故
13.　衛生管理
14.　子どもの保健を学んで</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">言語表現</td><td>科目コード</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>２年次</td><td>前期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">保育者として言語表現技術の基礎的知識および必要な技術を身につけ。保育の方法を学習する。
日ごろから興味関心を絵本や昔話に持つことを望む。そして、言葉と表現力についての学びを深め、物語を吟味・分析する力を身につける。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・表現技術のひとつとしての言語表現について、基礎知識・技術を習得する。
・絵本や紙芝居を中心とする児童文化財に関する基礎知識を習得し、表現力豊かな実演を行うことができる。
・言語表現活動が子どもの人間形成に果たす意義を理解する。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">作品：40%　課題レポート：20%　作品発表：40%</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">作品の完成度、課題レポートの完成度、作品発表の方法等方法等
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">髙岡　純子</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">プリント</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">言葉（指導法）</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　子どもの言葉と表現）
2.　絵本，物語の魅力
3.　おすすめ絵本の紹介
4.　絵本作家と作品について
5.　よみきかせの基本と実践
6.　昔話にふれる
7.　言葉のあそび
8.　絵本から広がるあそび①制作
9.　絵本から広がるあそび②仕上げ
10.　子どもの言語表現力</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	乳児保育Ⅰ			科目コード	51011902	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	前期	30	2	無
授業の概要・目的	乳児期の子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につける。 また、子育てを担う保護者を支援する保育者としての役割を自覚し、支援を行う上で必要な知識や技能を修得することを目指す。					
到達目標	乳児の定義や乳児保育の意義、それに纏わる内容などの基礎知識を習得できる。 沐浴、着替え、排泄等の基礎技能が身につく。 調乳ができる。					
評価項目	課題（25%）、期末試験（70%）、出席（5%）					
評価基準	試験にて理解度を図る ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	多久和　阿沙子			非常勤		
実務経験者による授業	保育士として、さらに保育士養成校にて教師として 10 年従事。 現在は、保育所を開園し、園長として、子どもひとりひとりの「学びたい」気持ちを育む保育を展開している。この経験と栄養士としての知識をもとに実践的な指導を行う。					
テキスト・参考文献	はじめて学ぶ乳児保育　同文書院 保育所保育指針　厚生労働省 プリント					
関連科目	乳児保育Ⅱ					
授業計画	1.　乳児保育とは何か 2.　乳児の定義 3.　乳児保育の成り立ち 4.　認定区分 5.　乳児保育のニーズの高まり 6.　保育所保育指針 7.　乳児保育に関する法律 8.　労働基準法 9.　育児・介護休業法 10.　乳児の発育の平均・発育測定 11.　0.1.2 歳児の発達過程 12.　0.1.2 歳児の保育に関わる配慮事項 13.　乳児期のこころの発達 14.　乳児の言葉の発達 15.　運動能力の発達 16.　原始反射 17.　乳児に適した玩具 18.　保護者連携					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">乳児保育Ⅱ</td><td>科目コード</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>２年次</td><td>前期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">乳児期の子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につける。
また、子育てを担う保護者を支援する保育者としての役割を自覚し、支援を行う上で必要な知識や技能を修得することを目指す。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">乳児の定義や乳児保育の意義、それに纏わる内容などの基礎知識を習得できる。
沐浴、着替え、排泄等の基礎技能が身につく。
調乳ができる。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験（70%）、実践（25%）、出欠席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験、実技の実践にて理解度を図る。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">多久和　阿沙子</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">保育士として、さらに保育士養成校にて教師として 10 年従事。
現在は、保育所を開園し、園長として、子どもひとりひとりの「学びたい」気持ちを育む保育を展開している。この経験と栄養士としての知識をもとに実践的な指導を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">はじめて学ぶ乳児保育　第三版（同文書院）
保育所保育指針（厚生労働省）
プリント</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">乳児保育Ⅰ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　だっこ・おんぶ
2.　乳児の衣服の基礎知識
3.　衣服の着脱
4.　乳児の排泄
5.　授乳の仕方と準備
6.　離乳について
7.　沐浴・清拭
8.　保育室内外の衛生</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	保育実習Ⅰ(保育所)			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	実習	２年次	前期	90	2	有
授業の概要・目的	「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。10 日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。 ①保育所における１日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める					
到達目標	・保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。					
評価項目	実習評価（50%）　日誌の内容（30%）提出物（20%）					
評価基準	日誌の完成度、期限、実習評価にて成績を付ける。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	多久和　直樹			非常勤		
実務経験者による授業	保育士として保育所勤務（３年)、園長（８年）					
テキスト・参考文献	テキスト 石橋裕子他編『新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園･保育所･児童福祉施設等　実習ガイド　第 2 版』(同文書院　2020 年) 参考文献 『幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子他（同文書院） 『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (H29 年告示)』内閣府・文部科学省・厚生労働省（チャイルド社） 『保育所保育指針解説書（H30 年 3 月)』厚生労働省（フレーベル館） その他 書店で指導計画作成書や、教材研究に関する書物を探して活用すること。 保育実習の手引き（岡山県保育士養成協議会）					
関連科目	保育所実習指導Ⅰ.Ⅱ					
授業計画	＜保育所実習Ⅰ（保育所）＞ 以下のような保育所においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握することに努める。 ①観察実習 ②参加実習 ③指導実習の部分指導 保育所等の役割や機能、保育士等の業務内容について、経験を通して具体的に学ぶ。					

保育学科　2025 年度

科目名	保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	２年次	前期	15	1	無
授業の概要・目的	この科目では、初めに保育実習の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを概説する。 それに続いて、具体的な内容を通して保育所実習についての授業を行う。 保育所実習前にすべき事柄・指導計画立案の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な実例に基づきながら行っていく。 また、保育所の実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。 「保育実習Ⅰ」終了後は、実習の反省、次回の実習にむけた課題など実習事後レポートをまとめる。					
到達目標	・保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。 ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。					
評価項目	実習日誌の課題提出（40%）、日誌の完成度（60%）					
評価基準	日誌の完成度、期限にて成績を付ける ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	多久和　直樹			非常勤		
実務経験者による授業	保育士として保育所勤務（3 年）、園長（8 年）					
テキスト・参考文献	テキスト 石橋裕子他編『新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園･保育所･児童福祉施設等　実習ガイド　第 2 版』（同文書院　2020 年） 参考文献 『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29 年告示）』内閣府・文部科学省・厚生労働省（チャイルド社） 『保育所保育指針解説書（H30 年 3 月）』厚生労働省（フレーベル館） 保育所実習の手引き（岡山県保育士養成協議会）					
関連科目	保育所実習指導Ⅰ.Ⅱ					
授業計画	1.　授業の目的、オリエンテーション 2.　保育実習での心構え 3.　自己課題 4.　指導案作成 5.　教材研究 6.　事例検討 7.　まとめ					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">保育所実習指導Ⅱ</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51058201</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>2 年次</td><td>前期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">・1 年間で習得した知識や技能、実習Ⅰで体験したことを基盤として、保育を総合的に関連つける力と保育実践に生かす力、応用力の向上を目指すことを目的とする。
・0 歳児から就学前の子どもの発達に即した遊びの指導案を計画作成、実践演習を通して実践力をつける。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・実習の心構え、保育士として必要な資質を理解し、実習Ⅱに向けての意欲が高まる。
・子どもの内面を読み取るポイント、読み取り方を理解、習得する。
・子どもの姿や実態に即したねらいをおさえた指導案を作成する。
・子どもの前で、明るくハキハキと関われる自信をつける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">単元レポート（50%）、実技（30%）、提出物（15%）、出欠席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">レポートにて理解度を図る
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">吉岡　さなゑ</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">公立保育所において保育士・主任保育士・副園長・園長として勤務し、40 年間保育にあたる。保育現場で、長年に渡り実習生を受け入れ、指導担当を務めた。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">・保育所保育指針
・保育実習の手引き（岡山県保育士養成協議会）
・保育園・幼稚園の実習完全マニュアル（成美堂出版）</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">保育所実習指導Ⅰ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　実習の実際
2.　指導案作成
3.　手作り教材作製、模擬演習
4.　手作り玩具作製、模擬演習
5.　模擬演習
6.　日誌の作成
7.　まとめ</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">図画工作 II</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51012301</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>2 年次</td><td>前期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">子どもの造形教育に関わる上で必要な知識、技能の習得（造形、色彩や構成）を行い適切で充実した援助、教育を行うことを目的とする。
さらに、製作や表現する楽しさを味わいながら、保育・教育の現場で必要なスキルを磨き、現場で即戦力となれるような技術力を身につける。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・制作活動を通して自由に表現する楽しさを味わいながら、現場で使えるスキルを身につける。
・創作活動において発想力・創造力を引き出すことの大切さを体験的に学習する。
・子どもに向けて実践することをイメージしながら制作することで、より現場に通用する技術を身につける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">提出物（60%）、作品の完成度（35%）、出欠席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">作品の完成度、期限等にて成績を付ける
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">川西　ともみ</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">幼稚園教諭・保育士として 10 年以上勤務。現在も保育士として働いていることをいかし、実践的な講義を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">参考資料提示・配布プリント</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">図画工作 I</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1. 図画工作 II を学ぶ目的について、保育実践と工作について
2. 手作り玩具の作成
3. はさみの指導法
4. 手作り絵本
5. 貼り絵
6. 幼稚園児対象の制作活動を考える。</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">パソコン演習</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51055901</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>2 年次</td><td>前期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">ワードを使用し基本的な書類の作成と仕組みを理解し、特徴を紹介しながら、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。
パワーポイントの作成を通して、プレゼンテーションの技術を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">罫線、表、グラフィックス等を利用し、読みやすいレイアウトデザインの文書を作成することができる。
見る側の立場に立って分かりやすくプレゼンを行う基礎技術を養う。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">出欠席（5%）、実技試験（45%）、プレゼンテーション（25%）、提出物（25%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">作品の完成度、プレゼンテーション発表内容、提出期限等にて成績を付ける
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">中上　篤</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">システムエンジニアとしての勤務経験を活かし、学生がコンピュータに関する基礎的な知識を理解できるように講義する。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">30 時間でマスター Office2019（実教出版）
プリント配布</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">パソコン実務</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　文書の作成
2.　クラスだより、保健だよりなど
3.　プレゼンの基礎を学ぶ
4.　パワーポイントを作成
5.　プレゼンテーション
6.　まとめ</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">身体表現Ⅱ－1</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51055101</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>2 年次</td><td>前期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">1 年次で学んだ遊戯の構成や表現力についてさらに磨きをかけ、子どもに対する表現の指導方法を身につける。また、保育園・幼稚園で必ず行われる生活発表会の遊戯に関して企画、立案、実践を行い、より現場で必要なスキルを身につけることを目標とする</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・リトミックやリズムあそびを実際の保育現場を想定して実践することで、幼児への指導方法を身につける。
・オペレッタの構成方法や小道具、大道具の作り方を身につける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">表現発表（60%）、出欠席（5%）レポート（35%）で評価をつける。</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">身体表現発表の完成度、レポートの内容、提出期限等にて成績を付ける
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">川西　ともみ</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">幼稚園教諭・保育士として 10 年以上勤務。現在も保育士として働いていることをいかし、実践的な講義を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">実践　心ふれあう子どもと表現　松家まきこ・鈴木範之　編（(株）みらい）</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">身体表現Ⅱ－２</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　オペレッタの実技
2.　リズムジャンプを行う
3.　パントマイム、サイレント劇の実践
4.　劇の企画
5.　劇遊び（運営実践）
6.　まとめ</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	食育Ⅱ			科目コード	51012701	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	近年、子どもを取り巻く食事の状況は社会の変化と共に変化を続けている。そこで、保育、幼児教育の現場に携わる上で子どもを中心としながらも保護者とともに食のあり方を知り、実践に生かすための基礎知識を習得し、より実践的な技術を学ぶ。					
到達目標	・実践経験を重ね、子どもに伝える技術の向上を図る。 ・楽しむ経験から、子どもとともに楽しむ方法を見出し、力をつける。					
評価項目	課題の完成度（55%）、小テスト(40%)、出席（5%）					
評価基準	課題の完成度、期限小テストの成績等にて成績を付ける。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	川西　ともみ			非常勤		
実務経験者による授業	幼稚園教諭・保育士として 10 年以上勤務。現在も保育士として働いていることをいかし、実践的な講義を行う。					
テキスト・参考文献	厚生労働省 HP、消費者庁 HP 子どもの食と栄養　（北大路書房） プリント					
関連科目	食育Ⅰ					
授業計画	1.　食育とは何か 2.　「食育」を考える 3.　食事のマナーを知る 4　給食指導 5.　食事事故の予防を知る 6.　食品の安全口の健康から考える食育 7.　食育教材 8.　献立作成 9.　模擬給食準備 10.　振り返り					

保育学科　2025 年度

科目名	教育実習指導			科目コード	51016001	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	通年	30	2	無
授業の概要・目的	教育実習に向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。観察記録の作成や指導計画の立案方法を学び、実践することで、指導計画の作成方法を身につける。また、教育実習後に振り返りを行い、反省・考察を行うことで次年度の実習に向けて生かしていけるようにする。					
到達目標	・幼稚園教諭としての必要な資質がわかり、実習に向けて意識を高め自分で準備をすることができる。 ・幼児の姿からねらいと内容を適切に立て指導案を作成がすることができる。 ・幼稚園の現場で利用できるすぐに楽しめる遊びを研究し、様々な場面で活用できるようにする。 ・オリジナルのペープサートや各種シアターを作り、ストーリーのある活用方法を工夫し、実際に発表する。 ・教育実習での振り返りから、反省考察を互いに共有し、次年度に役立てる。					
評価項目	指導計画の立案・提出（50%）、手遊び・模擬保育などの実技演習（45%）、出欠席（5%）で総合的に評価する。					
評価基準	作品の完成度、課題の期限等にて成績を付ける ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	吉岡　さなゑ			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	幼稚園教育要領　文部科学省					
関連科目	教育実習事前事後指導					
授業計画	1.　教育実習の意義と目標について 2.　幼稚園の役割や園の一日の流れについて知る 3.　5 領域のねらいと内容・10 の姿について学ぶ 4.　異年齢保育の現状や重要性について知る 5.　年齢別の遊びを考察する 6.　指導案のねらいと内容についての基本形を学ぶ 7.　指導案（部分指導）を立案する。教師の援助を明確にする 8.　指導案（全日指導）を立案する 9.　遊びに使用する道具やオリジナルのペープサート・各種シアターを作る 10.　教育実習の振り返りについて					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">音楽Ⅱ</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51012601</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>2 年次</td><td>通年</td><td>60</td><td>4</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">ピアノ・声楽の個別指導に加え、子どもの前でも自信を持ち、落ち着いて演奏できるように、授業内で他の学生の前で演奏する機会を設け、慣れさせる。季節・行事・生活に曲のレパートリーを増やせるように練習に励んでほしい。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">実習先でも自信を持って子どもの指導が出来るように、保育の現場で必要な表現力を身に付ける。
曲に合った演奏や指導が出来るように、音楽の楽しさを伝えられる技術、指導法を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">確認テスト（65%）、期末試験（30%）、出席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">随時確認テストを行い、熟練度を図る。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">井上　美樹</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">「音楽（ピアノ教本）」、「音楽（声楽教本）」（近畿大学九州短期大学）
「子どものうた 100 選」（チャイルド本社）
プリント</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">音楽Ⅰ</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">童謡の弾き歌い
課題曲の実技

※近畿大学指定の課題曲を順次行う。
※それぞれ音楽Ⅰで学んだ内容から個人の進行度を確認し、個人目標を設定して実施していく。</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	多文化共生保育			科目コード	51018501	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	前期	30	1	無
授業の概要・目的	①文化の定義を理解し、異文化理解の基本的考え方を習得する。 ②異文化を相対的に理解することの意義を理解する。 ③幼児教育現場における多文化共生の実践は、幼児・保護者・保育者のみならず、地域社会との連携を通して可能であり、そのためには異文化間の対話が必要であることを理解する。					
到達目標	・文化の定義・文化相対主義、グローバリズムなど異文化理解に必要な基本的概念を理解する。 ・外国の文化や考え方について幼児期から親しみを持つための工夫や環境構成について学習する。 ・日本文化を子どもたちに理解してもらうための知識や方法について学習する。 ・3 法令にみられる多文化共生関連部分を理解する。					
評価項目	期末試験（85%）、レポート課題（10%）、出欠席(5%)で評価をつける。					
評価基準	期末試験：授業で学んだ５つの国のうち、興味を持った国について論文を書く。 レポート課題：単元ごとに知識の定着を図る。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	難波　芳子			常勤		
実務経験者による授業	岡山ユネスコ協会で、理事として 25 年以上活動し、外国人との対応の仕方や日本語教育について熟知している。その経験を活かし、保育・幼稚園現場において、近年多文化を持つ子どもたちの増加に対して、保育者・教育者として必要な知識を深められるように講義する。					
テキスト・参考文献	「多文化保育・教育論　咲間　まり子編」みらい					
関連科目	英会話Ⅰ					
授業計画	1　多文化共生社会の必要性（多文化保育教育とは） 2　在日外国人の動向（在日外国人の人口的動向） 3　外国につながる子どもの保育・教育 （言葉に関する事例、食事に関する事例、保護者への支援等） 4　海外の子育て支援の現状（ノルウェーの子育て支援の現状） 5　海外の子育て支援の現状（フィンランドの子育て支援の現状） 6　海外の子育て支援の現状（アメリカの子育て支援の現状） 7　海外の子育て支援の現状（中国の子育て支援の現状） 8　海外の子育て支援の現状（韓国の子育て支援の現状） 9　まとめ　確認テスト （海外での子育て支援の現状と多文化共生保育の全体のまとめ）					

保育学科　2025 年度

科目名	英会話Ⅰ			科目コード	51058102	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	前期	30	1	無

授業の概要・目的	グローバル社会が進む中で、保育園、幼稚園でも教育の中に英会話を取り入れた園が増えてきている。本校の学生が直接子どもたちに英語を教える機会は少ないかもしれないが、子どもたちが外国人の先生から学んだ英語を使う機会は日々の中にある。子どもたちが学んだ英会話を使う機会に教師が対応できる程度の会話力を身に付けることを目的としている。
到達目標	・日常生活の中でよく使われる英語表現を学び、自分自身のことを表現することができるようになる。 ・幼稚園や保育園で関わる外国人の先生と少しの会話ができる。 ・外国の異文化を理解する。
評価項目	期末試験（85%）、確認テスト（10%）、出欠席（5%）で評価をつける。
評価基準	期末試験、確認テスト：保育園・幼稚園で使用される単語や会話について理解を図る。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。
担当教員	難波　芳子　　常勤
実務経験者による授業	米国大学卒業後、英会話教室にて 3 年間、幼児～高校生までに英会話を教えていた経験を活かし、学生が、日常英会話から保育所・幼稚園業界で使用される会話が理解できるよう講義する。
テキスト・参考文献	「Happy English for Childcare　Maiko Tsuchiya」KENSEIDO
関連科目	多文化共生保育

授業計画		
	Pre-Unit Unit1 Unit2	自己紹介（英文で 1 分間）日常のあいさつ、初対面のあいさつ、人を紹介する、名前や出身地を聞く、別れのあいさつ、道案内等、 確認テスト 1、2
	Unit3 Unit4	登園時の会話や体調が聞けるようになる 好き・嫌いを聞く表現、昔話の英訳、確認テスト 3、4
	Unit5 Unit6	園外散歩での会話・集団活動、園庭での会話・道具の名称、 確認テスト 5、6
	Unit7	保護者からの相談、好き嫌い、食材の名称 確認テスト 7
	Unit8	お昼寝時間の会話、確認テスト 8
	Unit9	降園時の会話、確認テスト 9
	Unit10 Unit11	If を使った表現,、Shall I～ Will you～ の表現、 確認テスト 10、11
	Unit12	体調不良の園児に対して、 確認テスト 12
	Unit13 Unit14	保護者との電話対応、伝言、昔話翻訳、お礼の表現他、 確認テスト 13、14

保育学科　2025 年度

科目名	音楽表現技術			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	「幼児と音楽表現」での学修を元に、楽曲や声楽など技術向上をすることや教育・保育の現場で必要なレパートリーを増やしていく。 子どもの前で実践することを目的とした、体験的な学びを取り入れる。					
到達目標	幼児と音楽表現」での学修を元に、より実践的な歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法を習得する。 教育現場で必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やす。					
評価項目	実技試験（80%）、楽曲の進行度（20%）					
評価基準	随時確認テストを行い、達成度を図る。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	井上　美樹			非常勤		
実務経験者による授業	音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室					
テキスト・参考文献	「音楽＜声楽教本＞」、「音楽＜ピアノ教本＞」（近畿大学九州短期大学） 「子どものうた１００選」（チャイルド本社） プリント					
関連科目	音楽Ⅰ、音楽Ⅱ					
授業計画	1. 楽譜の記入方法や正しいリズムの取り方 2. 基礎練習（楽曲振り返り） 3. 子どもの歌（楽曲振り返り） 4. 課題曲実技試験（弾き歌いを含む）					

保育学科　2025 年度

科目名	幼児と造形表現			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	２年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	授業では、幼児画の発達講義において幼児画の発達過程と特長の理解を深め、幼児期の発達に適した創作活動の援助について考察する。 子どもの表現の特徴を学び、子どもとの創作活動への展開と適切なあそびへの援助に役立つ表現方法の演習体験により習得する。 作品製作体験後、演習後記の記述から課題に対する自分の意見発表、課題の活用方法の検討を行い、作品鑑賞と子どもの表現活動への展開を図る。					
到達目標	本講義では、誕生から 6 歳までの幼児表象画縦断的記録作品の考察から子どもの描画発達と表現の特徴を学び、保育援助の本質となるそれぞれの子どもの発達段階に適した援助について理解を深める。 作品制作では創作の楽しさを体験し、素材や用具について理解を深めることで、主体的な創造活動を通して自己表現を育み幼児の造形表現に寄り添い、成長を見守る保育者として必要な造形教育援助方法の習得を目指す。					
評価項目	講義ごとの作品、レポート課題の提出（100%）					
評価基準	講義ごとの作品、レポート課題の完成度等 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	伊藤　智里			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	「造形表現（指導法）」（近畿大学九州短期大学　通信教育部発行） ・その都度、資料を提示する。					
関連科目	図画工作Ⅰ、造形表現（指導法）					
授業計画	1.　美術表現技法 1「身近な素材を使って制作：教材①」 2.　美術表現技法 2「身近な素材を使って制作：教材②」 3.　美術表現技法 3「身近な素材を使って制作：教材③」 4.　講義「幼児画の発達過程」0 歳～3 歳の子どもの絵 5.　講義「幼児画の発達過程」3 歳～6 歳の子どもの絵と造形 6.　講義「幼児画の特徴・縦断的作品」子どもの作品から見えてくるもの 7.　美術表現技法の応用 1「素材と技法の活用」 8.　美術表現技法の応用 2「創作への展開」 9.　美術表現技法の応用 3「オリジナル作品制作」 10.　美術表現技法の応用 4「作品発表と鑑賞・まとめ」					

保育学科　2025 年度

科目名	幼児と健康			科目コード	-	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	２年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	幼児期の運動遊びを追体験することを通して、保育者として必要な運動遊びのレパートリーを増やすこととバリエーションの拡げ方を理解するとともに、運動遊びの指導に必要な保育技術についても検討したい。 また、運動指導の系統性に関する理論学習によって就学前体育の実践課題についても検討する。 遊びの本質である楽しさを理論的に理解し、実践できるよう実践形式で行う。					
到達目標	・「今の時代を生きる子どもたち」に対する運動遊びのもつ教育的意義について説明できる。 ・各種の運動遊びを素材とした短期の指導計画を作成することができる。 ・運動遊びの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する。					
評価項目	課題レポート（50%）、単位修了試験（発表などの実践）（50%）					
評価基準	レポート課題の完成度、発表についての視点、理解度等 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	石田　博也			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	配本テキスト 参考文献：厚生労働省『保育所保育指針解説書（H30 年 3 月）』（フレーベル館） 随時、資料を配布する。					
関連科目	健康科学					
授業計画	1.　オリエンテーション、アイスブレーキングゲーム 2.　コミュニケーションゲーム 3.　乳幼児期の運動発達と指導計画の作成について 4.　運動あそびの指導計画の作成① 5.　運動あそびの指導計画の作成② 6.　運動あそびの指導計画の実践① 7.　運動あそびの指導計圃の実践② 8.　運動あそびの指導計画の実践③ 9.　運動あそびの指導計画の実践④					

保育学科　2025 年度

科目名	幼児への特別な支援			科目コード	51018301	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	・障害のある子どもの保育に対して自ら関心をもって対応、実践できるようになることを目的とする。 ・障害のある子どもと障害のない子どもとの関りの中で、両者が共に育つものを大事にしながら、どのような支援、手立てをしていくことが大切か事例から学びを深めていく。					
到達目標	・障害児保育の理論、支援の仕方、技法を理解し障害児保育への関心を深める。 ・障害のある子どもの困り感を理解し、子どもの心に寄り添った保育（支援）ができることを目指す。					
評価項目	期末試験（80%）、確認テスト（15%）、出欠席（5%）					
評価基準	期末試験にて理解度を図る ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	高橋　知可			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	障害児保育第 2 版（ミネルヴァ書房）					
関連科目	障害児保育					
授業計画	1.　障害児保育とは何か 2.　乳幼児期における障害特性 3.　障害の特徴 4.　障害の特徴 5.　障害の特徴 6.　障害のある子どもの保育 7.　障害のある子どもの保育支援 8.　保護者との関わり 9.　保育形態 10.　感覚統合について					

保育学科　2025 年度

科目名	保育の心理学			科目コード	51017701	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	２年次	後期	30	2	無
授業の概要・目的	・発達心理学とは何か ・発達理論（成熟説・環境説・輻輳説・相互作用説） ・言語の発達 ・知的発達（ピアジェ） ・環境と発達（初期経験の影響） ・感情の発達 ・社会性の発達 ・道徳性の発達					
到達目標	保育実践にかかわる心理学の知識を習得し、保育における発達援助のあり方を具体的に考えることができる。					
評価項目	提出物（レポートの提出、課題の提出)95%、出欠席 5%					
評価基準	レポートの完成度、課題の提出期限等 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	多久和　直樹			非常勤		
実務経験者による授業	保育士として保育所勤務（３年)、園長（８年）					
テキスト・参考文献	実践に活かす保育の心理学　原口喜充　編著（ミネルヴァ書房） 『保育の心理学』宮原和子・宮原英種　著（近畿大学九州短期大学） 『保育に生かす教育心理学』伊藤健次　著（㈱みらい）					
関連科目	幼児の心理学					
授業計画	1.　保育の心理学とは何か 2.　保育評価 3.　自己意識 4.　心の理論 5.　乳幼児期の遊びの変遷 6.　遺伝と環境 7.　友人関係 8.　行動主義 9.　スキールズ・ダイの研究について 10.　小学校との連携・接続 11.　内発的動機づけ、外発的動機づけ 12.　エリクソンの発達理論 13.　道徳性の発達 14.　まとめ					

保育学科　2025 年度

科目名	教育相談			科目コード	51013901	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	後期	30	2	無
授業の概要・目的	・保護者の心を支えることの基本的な考え方とカウンセリングや心理学の基本的理論、カウンセリング技法を学ぶ。 ・保育者として保護者の内面理解をしながら心の支えになること、そのうえで保護者に子育ての養育力をつけていくことを目的とする。					
到達目標	・保育者として保護者の子育てを支え、子育ての協力者であることの自覚 ・傾聴の大切さの理解と日ごろから実践しようとする意欲 ・自分自身を振り返り、自己を高めようとする姿勢					
評価項目	期末試験（80%）、確認プリント（15%）、出席（5%）					
評価基準	試験にて理解度を図る ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	難波　芳子			常勤		
実務経験者による授業	保育士として保育所、子育て支援センター勤務経験を活かし、具体的な事例検討も交え、より実践的な理解を図る。					
テキスト・参考文献	子育て支援カウンセリング（図書文化）					
関連科目	子育て支援					
授業計画	1.　子育て支援について 2.　カウンセリングの理論 3.　カウンセリングの技法 4.　日常の保護者とのかかわり方 5.　養育困難を抱える保護者支援 6.　障がいのある子どもの保護者支援 7.　精神疾患の保護者理解と対応 8.　親としての成長を支える 9.　構成的グループエンカウンター 10.　保育者として自分と向き合う					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">教育実習（前期）</td><td>科目コード</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>実習</td><td>２年次</td><td>後期</td><td>90</td><td>2</td><td>有</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために第 1 回（2 週間）の実習では、観察・参加実習、部分実習を実習では、指導実習を主とする実習を行うこととする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。
・幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。
・幼稚園での 1 日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。
・部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">実習評価（50%）、日誌の内容（30%）、提出物（20%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">日誌の完成度、期限、実習評価にて成績を付ける
※出席率が 80％未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">多久和　直樹</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">保育士として保育所勤務（3 年）、園長（8 年）</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">テキスト
「教育実習事前事後指導」
参考文献
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領・保育所保育指針（H29 年告示）』（チャイルド本社）
林幸範・石橋裕子編著「保育園・幼稚園の実習完全マニュアル」（成美堂出版）
東山明・名賀三希子著「教育・保育実習実技ガイド」（ひかりのくに）
片山紀子編著「保育実習・教育実習の設定保育」（朱鷺書房）
教育実習の手引き（専門学校岡山情報ビジネス学院）</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">教育実習指導</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　幼稚園における 1 日の生活・活動の流れと生活・活動内容の概要
2.　遊び・生活場面での園児の行動
3.　園児の行動に対する幼稚園教諭の対応</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">教育実習事前事後指導</td><td>科目コード</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>２年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">幼稚園実習に向けての心構えをもち、基礎的な知識と技能修得に向け講義、演習を行う。
3 才児、4 才児、5 才児の発達段階に沿った、ねらい、内容を立て、援助や環境構成についても考えていくことができるよう指導案作成をする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">実習生として自身が現場で学ぶべきこと、とるべき姿勢について、明確な目的意識と自覚をもつ。
幼稚園の役割や幼稚園教諭の職務などについて理解する。
発達段階に即した指導計画の立案ができる。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">事前課題の提出（20%）、授業内課題（50%）実践（25%）、出欠席（5%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">提出の完成度、期限、実践の内容から成績をつける
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">多久和　直樹</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">保育士として保育所勤務（３年）、園長（８年）</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">幼稚園教育要領　文部科学省
プリント</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">教育実習指導</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　教育実習に向けた態度や心構え
2.　幼稚園及び幼稚園教諭の役割
3.　教育実習の内容と方法について
4.　日誌を記録する意味とその重要性
5.　指導案作成のポイント及び留意点
6.　指導案の作成
7.　自己課題の明確化</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	介護概論			科目コード	51015702	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	保育業界でも社会福祉を学び高齢者、障害者等介護業界についても介護全般の介護概論を学ばせる。社会福祉、高齢者、介護保険等制度的な概要を学び、実際に介護保険を利用するとどれくらいの金額になるのかを学び、社会保障に目を向ける。					
到達目標	社会福祉や高齢者、障害者について制度的な内容を理解する。					
評価項目	期末試験（75%）、提出物（20%）出席（5%）に基づいて評価する。					
評価基準	提出期限、期末試験にて理解度を図る。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	伊丹　稔博			常勤		
実務経験者による授業	介護老人保健施設（7 年）、障がい者施設にてサービス管理提供責任者（3 年）					
テキスト・参考文献	プリント対応					
関連科目	社会福祉					
授業計画	1.　社会福祉について 2.　老人福祉 3.　高齢者・障害者の心理について 4.　介護保険制度の概要 5.　介護給付費請求についてレセプト演習（基本） 6.　レセプト演習（様式八） 7.　レセプト演習（様式九） 8.　レセプト演習の振り返り					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">身体表現Ⅱ－2</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51055201</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>2 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">前期で学んだ遊戯の構成や表現力についてさらに磨きをかけ、子どもに対する表現の指導方法を身につける。また、保育園・幼稚園で必ず行われる生活発表会の遊戯に関して企画、立案、実践を行い、より現場で必要なスキルを身につけることを目標とする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・クラスで一つのものを作り上げることで、自分の役割に責任を持ちながら話し合いを進め、最後までやり遂げる。
・2 年間リトミックの授業で学んだことを生かし、表現力、構成力に磨きをかける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">表現発表（55%）、レポート（40%）出欠席（5%）で評価をつける。</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">・オペレッタに向けての準備への参加状況、オペレッタの発表の様子（構成力・大道具小道具の出来栄え・表現力）。
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">川西　ともみ</td><td colspan="3">非常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">幼稚園教諭・保育士として 10 年以上勤務。現在も保育士として働いていることをいかし、実践的な講義を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">実践　心ふれあう子どもと表現　松家まきこ・鈴木範之　編（(株）みらい）</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">身体表現Ⅱ－1</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　目的、目標の提示、オペレッタの題材を決める
2.　役割を決める
3.　各役割に分かれてオペレッタを制作する
4.　発表する
5.　まとめ</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">ビジネス実務ⅣＢ</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51061901</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>演習</td><td>2 年次</td><td>後期</td><td>15</td><td>1</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。
そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とし講義内容とする。
就職に必要なマナー、面接対策、コミュニケーション力などの実践力を養い、自分の将来をしっかりと見つめて働くことや職業への理解を深めていく。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">・自分の強みを知り、効果的に自分を伝える方法を学ぶ。
・社会人としてマナーの必要性を理解させるため、業界での必要とされる人材を意識させ、ロールプレイングを取り入れ、実践させていく。
・明確な目標設定ができ、それに向かって努力ができる。
・マナー、礼儀を身につけ、社会人としての判断ができる。
・自己分析、応募書類の書き方、面接のコツなど、就活テクニック向上につながる知識を得る。
・第１回就職対策の準備をする。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">期末試験（65%）、出欠席（5%）、提出物（30%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">期末試験：各単元の理解度をはかる試験を実施し評価する
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">松田　満寿美</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">ビジネスマナー基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
就活支援ブック　就職活動編（株式会社　キャリタス）</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">ビジネス実務ⅠA　ビジネス実務ⅡB　ビジネス実務ⅢB</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　キャリア
①自己 PR
②履歴書、自己紹介書
③面接対策
2.　就職対策
3.　社会人常識マナー検定、SPI</td></tr>
</table>

保育学科　2025 年度

科目名	保育教養Ⅱ			科目コード	51011401	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	後期	15	1	無
授業の概要・目的	保育者として即戦力となるべく、ワードを使用し基本的な書類の作成と仕組みを理解しする。また PowerPoint の特徴を知り、基本的な操作方法を学ぶことで、保育で使用する事務能力の獲得を目的とする。					
到達目標	保育所等で使用するおたよりの作成やパワーポイントを使用し効果的なプレゼンテーションを行うことができる。					
評価項目	出欠（5%）、プレゼンテーション（55%）、提出物（40%）					
評価基準	提出期限、試験にて理解度を図る ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	伊丹　稔博			常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	適宜教員よりプリント配布					
関連科目	パソコン演習					
授業計画	1. Word の基本操作の復習 2. 図形の挿入、背景の削除 3. 効果的な文字の使用方法 4. おたよりの作成 5. PowerPoint の基本的操作 6. 効果的なアクションの使用方法 7. PowerPoint 作成 8. PowerPoint での発表 9. まとめ					

保育学科　2025 年度

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">子ども家庭支援の心理学</td><td>科目コード</td><td colspan="2">51018401</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="2">開講時期</td><td>時間数</td><td>単位数</td><td>企業連携</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>講義</td><td>2 年次</td><td>後期</td><td>30</td><td>2</td><td>無</td></tr>
<tr><td>授業の概要・目的</td><td colspan="6">生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題について理解する。
家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係などについて発達的に理解し子どもとその家庭を含む現代社会の状況と課題を理解する。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">生涯発達を理解し、子どもを取り巻く様々な問題を支援するスキルを身に着ける。</td></tr>
<tr><td>評価項目</td><td colspan="6">レポート課題 15%、出席 5%、筆記試験 80%</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">単元ごとのレポート課題、期末試験にて理解度を図る
※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="3">伊丹稔博</td><td colspan="3">常勤</td></tr>
<tr><td>実務経験者による授業</td><td colspan="6">介護老人保健施設（7 年）、障がい者施設にてサービス管理提供責任者（3 年）</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考文献</td><td colspan="6">『子ども家庭支援の心理学』　公益財団法人児童育成協会　中央法規出版社</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="6">子ども家庭支援論</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="6">1.　生涯発達、家庭支援を学ぶ意義と目的
2.　乳児期の発達
3.　幼児期の発達
4.　学童期の発達
5.　青年期の発達
6.　成人期・中年期の発達
7.　高齢期の発達
8.　家族・家庭の意義と機能
9.　家族関係・親子関係の理解
10.　子育ての経験と親としての育ち
11.　子育てを取り巻く社会的状況
12.　ライフコースと仕事・子育て
13.　多様な家庭とその理解
14.　特別な配慮を要する家庭
15.　子どもの生活・生育環境とその影響
16.　子どものこころの健康にかかわる問題
17.　まとめ</td></tr>
</table>